

画像処理装置

機能絞り小型化

アルゴル、1月から販売



画像処理装置開発のアルゴル(長野県南箕輪村、今井博充社長)は電子部品などを検査する小型の

画像処理装置を開発、来年一月に販売を始める。機能を絞ることによって従来機の四割程度に小型化した。価格は七十万円。

主に精密部品加工メーカーに売り込み、初年度三百台の販売を目指す。

製品名は「GV-X」
写真。微細な電子部品や自動車部品などの製造ラインに据え付けて使用する。CCD(電荷結合素子)カメラで部品をと

らえ、外形に異常がないかを自動的に検査する。検査性能は従来機と同じで毎分三千個以上。

新製品の大きさは幅三十二センチ、高さ九センチ、奥行き三十一センチ。重さは従来機より二割軽い五キロとなっている。接続できるCCDカメラの数を減らし、装置に内蔵する拡張ボードを従来機の半分の三枚にしたことで小型化を実現した。